座談会
Discussion

医療・介護、住民がつくる地域見守りの仕組み

社会医療法人財団仁医会牧田総合病院が運営する「地域ささえあいセンター」を中心とした高齢者見守りネットワーク。今年5月には地域住民が気軽に立ち寄れるカフェ「おおた語らいの駅」をオープンした。「みま～も」に携わる6人に病院を中心とした地域を語ってもらった。

「みま～も」の活動を通じ病院の「予防機能」が強化

――2008年に「おおた高齢者見守りネットワーク（みま～も）」の活動が始まり、およそ10年。その間に協賛団体とサポーターは増え続け、12年には地元商店街に活動拠点の「アキナイ山王亭」を設置。今年5月には全世代を対象とした居場所カフェ「おおもり語らいの駅」をオープンしました。

澤登　高齢者の見守りを支える仕組みがあればいいと思い、牧田総合病院が運営を受託していて、当時私がセンター長を務めていた「地域包括支援センター入新井」が中心となって「みま～も」を設立しました。さまざまな活動をしてきましたが、その過程で地域づくりを実現するには高齢者だけを対象にしてもムリだと気づきました。お年寄り同士では生活を支えきれません。地域に暮らすすべての人を対象にした事業ができないかと考えました。見守りや支えを必要とするのは高齢者だけではなく、孤立している若者などもいます。そういった方たちもサポートしたいと考え続けるなか、荒井好範理事長にもご理解いただき「おおもり語らいの駅」を開設しました。ここでは気軽に立ち寄れるカフェがあり、定期的に健康イベントなども開催しています。

野口　大森の商店街は高齢化していて、アーケードの建て替え事業をきっかけに「みま～も」の活動を呼び込み、商店街内に「アキナイ山王亭（みま～もステーション）」を5年前にオープンしました。手話ダンスや手芸といった趣味や健康の講座、レストランを定期的に開催していて、結果的に高齢者が活き活きと商店街で活動しています。空き店舗はこの5年間でほぼゼロになり、大森の他の商店街にも波及し始めています。最近は、子育て世代や子どもたちも出入りしていて、「おおもり語らいの駅」も一役買っているようです。

幸崎　「みま～も」の活動に参加していただくことで、包括支援センターだけではフォローできない部分を補えていると実感しますから、社会資源として「みま～も」の存在意義は大きいと思います。

町田　「かかりつけ薬局」の仕組みが始まり、薬剤師は生活面も含めて薬を管理することになっていますが、地域住民に認識されないことには話になりません。そこで「みま～も」への参加を通じて薬剤師を知っていただく、あるいは普段からつながることで信頼関係を築ければと考えています。

成田　私は5年前に「みま～もサポーター」になり、ポールウォークなどの講座に参加したり、お食事のお手伝いなどをしています。たまたま、「アキナイ山王亭」の前を通ったら、ポールウォークの説明会を行っていて興味がわいたのがきっかけです。

荒井　「みま～も」は、予防から急性期、在宅に至るまで、患者さんをケアしたいという当院の方向性にマッチしました。また、一人の患者さんを我々の法人のなかで抱

ボトムアップで楽しく豊かな暮らしを実感できる人を増やす

澤登久雄さん（さわのぼり・ひさお）
社会医療法人財団仁医会　牧田総合病院
地域ささえあいセンター　センター長
社会福祉士

みま～もにより医療・介護事業所へのアクセスが向上

荒井好範さん（あらい・よしのり）
社会医療法人財団仁医会
牧田総合病院　理事長
脳神経外科専門医　認知症学会専門医

(C) 2017 日本医療企画.

でを病院ではフォローしきれません。「みま〜も」に参加し、医療や介護が必要になる前から専門職とつながっている住民の方ですとフォローすることができます。

荒井　病院は病気を治すだけの場ではなく、これからは病気になる前の段階からかかわっていかなければなりません。「みま〜も」の活動、「アキナイ山王亭」「おおもり語らいの駅」には、そういった役割を期待しています。

幸崎　先日は「おおもり語らいの駅」で、小学生から高齢者を集めて脳について荒井先生が話をし、みんなで血圧の測り方も学びました。ここには世代、医療・介護ニーズも異なるいろいろな人が集まり、私たちも早くからかかわることで、気づきや支援などがすべて先回りできています。

成田　定期的に近所の診療所に通っていますが、それとは別に「みま〜も」に参加することで医療と介護に対する距離が近くなり、「おかしいと思ったら牧田さんに連れて行って」と頼んでいますよ(笑)。

幸崎　元気な時の成田さんを知っているので、それこそ変化にいち早く気づけるわけです。

野口　バックに病院があるから他の商店街理事やメンバーに伝えやすく、理解が得られやすいです。牧田さんは老舗なので知らない地域住民はいません。食をテーマにしたイベントでも、その場に看護師さんを始め専門職がいるので安心感もあり、反対されずにいろいろなことをやれています。

協賛団体に働きかけ一緒にできることを考えたい

幸崎 華江さん(こうざき・はなえ)
大田区地域包括支援センター入新井　管理者
看護師

地域主体の活動は展開がスピーディで行政も協力的

——行政主導の活動でないことも「みま〜も」の大きな特徴です。

澤登　国が政策を立てて自治体が遂行するとなると、職員には評価や数値的な実績が求められ、地域住民からしても「やらされ感」が伴うこともあります。そこで「みま〜も」では地域住民が主体となり、ボトムアップで楽しく豊かな暮らしを実感できる人を増やしていくことを大切にしています。現在は約100人いるサポーター制度をつくったのも、やりたい人が

他業種の協賛を増やし、新たな見守りの仕組みを

野口晃一さん(のぐち・こういち)
株式会社カドヤ建設　常務取締役
ウィロード山王商店街副理事長

手を上げて申請書を書き、年会費を払って参加するという主体的な過程を取りたかったからです。協賛の仕組みもお金をいただくだけではなく、講座の講師役など、人材も投入してもらいます。

荒井　病院として、この事業で収益を上げようとは考えていません。住民の健康を守ることが第一です。ただ、活動を通じて病院に来てくれる方もいますから、一つの宣伝になっていることは確かですね。将来的には健診事業とタイアップして住民の健康管理までできるといいと考えています。

町田　予防の観点だと牧田さんは相談窓口の敷居が低く、食品、薬局、訪問看護、訪問歯科など、協賛団体の健康講座で知識も得られます。結果として、健康に対する住民のポテンシャルは上がっていると思います。

野口　「みま〜も」はできることからどんどん実現していくので、行政からしてもでき上がったものにはお金を出しやすく、商店街としても恩恵を受けています。「アキナイ山王亭」も補助金で成立していますが、仕組みを先につくってくれたからこそ。商店街の裏にある公園は行政から補修の提案をいただきました。本来は陳情して実現しることなのです、これはすごいことです。

——最後に、今後の地域づくりの展望をお聞かせください。

町田　いろんな業界が地域を支えるために変わり始めています。こういった動きが他の専門職にも波及するよう、薬剤師同士、さらには他職種による横のつながりを構築させていきたいです。

成田　太極拳やポールウォーク、健康講座には70代の女性を中心に、最近は男性も来るようになりました。私もお友達をどんどん誘っていきたいですし、みんなに知ってもらいサポーターを増やしたいと思います。

野口　現状では賛助団体に建築業は当社だけで、不動産業はいません。不動産業は家賃の回収など地域住民と接する機会が多く、新たな見守りの仕組みがつくれるのではないかと思います。他業種の協賛が増えるよう、尽力していきます。

幸崎　協賛団体は94ありますが、まだ直接かかわっていない業界・事業所はたくさんあります。そういう人たちにも働きかけ、何ができるのかを一緒に考えたいと思います。それがかなえば、講座の充実など住民が求めている活動ができるはずです。

荒井　当院でも5年前までは「みま〜も」について、誰も知りませんでした。院内の啓蒙、スタッフの理解を促すことは課題で、普及はまだまだ足りていません。

澤登　病院がこういった活動をするには組織の理解が必要不可欠。我々の場合、理事長をはじめご協力いただいたので活動ができています。とはいえ、理事長が言うとおり、まだ足りませんから、そこはしっかりと押さえていきたいです。そのことにより地域住民を見守りつつ、健康意識を向上させ、住民の方に異変がある前に気づける仕組みがつくれると思います。商店街にもご協力いただきいろいろな業種を巻き込みながら、よりよい組織にしていきたいですね。

住民と普段からつながることで信頼関係を築きたい

町田 剛さん(まちだ・つよし)
おおた高齢者見守りネットワーク(みま〜も)副代表
薬樹株式会社　取締役
保険薬局事業部本部　第一事業部長
薬剤師

みま〜もに参加することで医療と介護に対する距離が近くなる

成田慶子さん(なりた・けいこ)
地域住民
86歳、5年前にみま〜もサポーターとして活動に参加

(C) 2017 日本医療企画.